

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価書】

堺市立大仙小学校
校長 大田 圭子

旭学校群教育目標 自ら課題をみつけ、仲間とともに未来を創り出す子どもの育成

令和6年度 学校教育目標 「社会と向き合い、主体的に学び、考えを表現できる子どもの育成」

児童の安全・安心を基盤とし、全職員が一致して「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」のバランスのとれた教育活動を行う中で、子どもたちが家族・友だち・地域・社会とつながり、主体的に学び、自らの考えを表現することができるよう、教育活動に取り組む。

「確かな学び」の現状

カリキュラムマネジメントによる子どもたちの変容のみとりから課題設定へと、教員のAARサイクルが定着してきた。地域資源を活かした総合的な学習の時間をはじめとする教育活動については、学校群小・中学校において交流を行い、めざす資質・能力としていた社会参画力については、昨年度、目標を達成することができた。今年度は、『学びの深まり』を授業改善のテーマとし、「学びのコンパス」を活用しながら、「主体的に学ぶ子ども」の育成にむけて全教職員で取り組む。

「豊かな心・健やかな体」の現状

昨年度の学校教育アンケートでは、「自分にはよいところがある」と肯定的に答えた児童の割合が低く、課題ととらえている。子どもたちが自己有用感を高めることができるよう、一人ひとりに居場所と出番のある教育活動を実施していく。「健やかな体」の育成については生活習慣の徹底に課題があり、改善できるよう家庭への啓発を行うとともに、学校全体で児童自身の自律（学習・生活）を促す活動に取り組む。

中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★学校群での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～10月)	達成状況 (年度末)		
							自己評価	学校関係者評価	
確かな学び	総合的な学力の育成 学びの系統性と教科横断的な学習のカリキュラム・マネジメントによる総合的な学力の向上	●★学校群 学校教育目標におけるめざす子ども像の実現にむけて、小中9年間を見通したカリキュラム・マネジメント、生活・総合的な学習の時間においては「学びのコンパス」を活用した「探究的な学び」に取り組む。研修委員会主催で、学期に2回のカリキュラム・マネジメント討議会を行う。	低・中「堺や地域のことに興味がある」肯定率85%以上 高「地域や社会をよくするために、何かしてみたいと思う」肯定的回答85%以上	学校教育アンケート	1月末	○ 総合を軸にしたカリキュラムマネジメントを行い、神石小との交流や外部講師の招聘を今年度も積極的に進めている。地域行事に関連した学びを行うことで、自分たちの住んでいる町や市をあらためて深く知る良い機会となった。 ◎ 各学期に教職員で検討し、子どもたちの身につけた力について整理している。	B	A	学校全体として、先生方を中心に、積極性のある学校経営をしていると感じた。子どもたちには誤答を経験させ、安心できる雰囲気を作ってから教育活動に取り組んでいるようにも見えられた。公開授業もたくさんの参加があり、群の注目の高さを感じられた。
		●★各教科等において単元を貫く問いを考え、子どもたちの「主体的な学び」と「学びの深まり」をめざす授業改善に取り組む。総合的な学力を育成する。6回の研究授業、秋に公開研究授業を行う。	「学校において、学習の過程をふりかえり、自分の学びが深まったり、広がったりしたと思う」肯定的回答80%以上	学校教育アンケート	1月末		A		
	学びの基礎力 生きる力のもととなる基礎・基本の学力の定着	漢字の読み書き、計算練習に取り組む。保護者と連携した家庭学習の習慣作りと合わせて、児童の基礎学力の定着を図る。 ●★児童1人1台パソコンを活用して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」に取り組む。 ●★言語力向上の取組として、思考のプロセスや自らの学びの可視化に取り組む。	学期末のテストで読み書き計算の習得率80%以上 「授業でPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使ったか」週3回以上回答率90%以上 授業において、「自分の考えた事柄をノートに書いていますか。」肯定的回答80%以上	実践報告 学校教育アンケート 学校教育アンケート	1月末 1月末 1月末	◎ ○ ○	インターネットで調べ学習をし、プレゼンソフトを使って学習したことをまとめたりしている。 読み書き計算などの基礎基本の定着を図るために、小テストや朝の学習で地道に取り組んでいる。また、家庭学習で自学にも積極的に取り組んでいる。	A B A	A
豊かな心・健やかな体	豊かな人間性 豊かな人権感覚と道徳性の育成	子どもに寄り添い、子どもを理解し指導する中で、居場所と出番のある授業を行い、子どもの自尊感情を育成する。	「自分にはよいところがある」肯定的回答95%以上	学校教育アンケート	1月末	○ ◎	B B	A	「できないこと」が「あかんこと」ではない。自分で受け止め、感じることができれば、より自分を客観的に観ることができる。安心して失敗できる学校であり続けてほしい。失敗を経験することで成功への道筋を見出せるようになる。人と比べるのではなく、自分自身の成長に喜びを感じることができるよう指導者、大人の関わりを期待したい。運動好きの児童が多いのは良い傾向であり、体力向上の取組は継続していただきたい。
		●特別支援教育、国際理解教育、道徳の授業などの充実をはかり、ありのままを受け止め、たがいに思いやりの心もち、自他ともに大切に児童を育成する。 ●自らの行動を律する取り組みとして、学校生活目標から、学級における目標を設定し、具体的な取り組みを行う。	「友達に困っているときには、自分からすすんで助けようと思う」肯定的回答90%以上 「学校は、学校や社会のルールや決まり、マナーを守る指導を行っている」肯定的回答90%以上	学校教育アンケート 学校教育アンケート	1月末 2学期末				
	健康・体力 心身の健康 体力向上	「家での7つのやくそく」を推進し、健康的な生活習慣の定着を図る。 「体力向上プラン」をふまえた体育授業の充実、保健や食育と合わせた健康についての指導を行う。	「健康に気を付けて生活をしている」肯定的回答90%以上 「体育の授業が好き」と答える児童の割合80%以上	学校教育アンケート 学校教育アンケート	2学期末 1月末	○ ◎	保健だよりや生活表等を通して、生活リズムを整えるように継続的に指導している。休み時間は外遊びをして身体を動かしている。	B A	A
安全安心な学校づくり	危険管理 児童の居場所づくり 安全・安心な教育環境	●★いじめアンケートによる早期発見、子ども理解会議を実施して情報共有、組織として適切に対応する。また「ステップルーム」「通級指導教室」など、多様な学びの場を確保することで、子どもが安心する学校づくりを行う。	「学校は、児童一人ひとりを大切に、安心して生活や学習ができる教育活動を行っている」肯定的回答90%以上	学校教育アンケート	2学期末	◎ ◎	A A	A	見守り隊の活動中、低学年の児童が筆壇が時などには、高学年の児童がすぐに助けられている姿をよく見た。高学年の児童が自然にこういった行動ができるということが成長の証。いじめの件について、4%の状況についても丁寧に対応してほしい。今後も保護者からの信頼を維持していただきたい。
		毎月の安全点検、避難訓練、緊急下校指導を実施し、子どもの安全を守る意識の向上をはかる。 食物アレルギー等についての理解を深め、安全・安心な給食指導の徹底をはかる。	「学校は、児童に健康や食事、安全に関する給食指導を行っている」肯定的回答90%以上	学校教育アンケート 学校教育アンケート	2学期末 2学期末				
	地域協働 家庭・地域と連携した教育の推進	学校HPを活用し、教育活動を公開・発信する。安全対策を講じた上で可能な限り教育活動を公開する。	「学校は、HPや行事・参観等を通して、学校生活や教育活動を公開し、家庭や地域と連携・協力している」肯定的回答90%以上	学校教育アンケート	2学期末	◎	学校HPは、毎日更新しているが、閲覧数が少ない。地域との連携は随時とれている。	A	A

校長より (年度末)

学校教育目標の実現に向けた教育活動を行い、学期ごとに評価していくことでより有効な取り組みとなった。しかし、地域・社会における課題に対して子ども自らの学びに積極性があるとは言えない。「学びのコンパス」を活用した授業改善を通して、主体的な子どもの学びにつなげたい。また、次年度は、基礎学力の定着に向けて、校内において工夫をこらした実践を行っていきたく考えている。

学校関係者評価者から (年度末)

それぞれの取組を通じて、「誰も取りこぼさない」という先生方の思いを強く感じた。学力・体力の向上は簡単に達成できるものではないが、課題の部分も含め、「地域の一員」として、私たちが教育活動への支援を今後も続けていきたいと考えている。